

ソフトウェア情報学研究科アドミッション・ポリシー

ソフトウェア情報学研究科では、現実社会の中からソフトウェア情報学の観点で、問題を発見し、その問題を実際に解決する実践能力を身につけた人材の養成を目指している。

このため、本研究科では次のような人材の入学を求めている。

- (1) 情熱をもって、コンピュータやソフトウェアのテクノロジーを探求することができる人
- (2) 社会や現場における問題発見能力、問題解決能力を修得したい人
- (3) コミュニケーション能力を有し、国際的視野で地域の発展に寄与することに興味を持つ人

ソフトウェア情報学研究科での人材育成目標は次のとおりである。

教育研究目標（養成する人材）＜前期課程＞

具体的には、以下の人材を養成する。

- (1) 自身の適性や能力を的確に把握し、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続し、新しい情報技術・システムを創造することができる。
- (2) 情報技術分野に対する情熱を持ち、人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。
- (3) 利用者の立場から、本質的な問題・課題を見出し、適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。
- (4) 技術者・研究者の立場から、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を活用し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- (5) 国際的な視野に立ち、自身の見解を分かりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ論理的な議論を交わすことができる。

修了後は、コンピュータ・通信情報関連分野を中心とし、経営・流通等あらゆる分野において、コンピュータソフトウェア、システム、情報メディアおよびネットワークの設計・開発等県内外の企業、官公庁、公的機関等における高度な専門的技術者としての活躍が期待されるほか、大学・研究機関等における研究者、大学院博士（後期）課程への進学が期待される。

教育研究目標（養成する人材）＜後期課程＞

具体的には、以下の人材を養成する。

- (1) 自身の適性や能力を的確に把握し、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続し、新しい情報技術・システムを創造することができる。
- (2) 情報技術分野に対する情熱を持ち、人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、技術者または研究者としての責任を感じることができる。
- (3) 利用者の立場から、本質的な問題・課題を見出し、適切な解決方法を導き出し、問題・課題を解決することができる。
- (4) 技術者・研究者の立場から、情報技術・システムの幅広い知識とスキル、そして自身の専門分野における学識を活用し、様々な問題・課題に適した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。
- (5) 国際的な視野に立ち、自身の見解を分かりやすく表現できるとともに、他者の意見を受け入れ論理的な議論を交わすことができる。
- (6) 博士後期課程修了時には、上記各項目のより高度な能力を修得し、情報技術・システムの新しい分野を創造することができる。また、社会の要請や自身の志のもとに実施する活動を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる。

修了後は、コンピュータ・通信情報関連分野を中心とした大学・研究機関等における高度な実践的研究者や教育者としての活躍が期待される。